

「地球市民村」参加NPO/NGO出展概要

(4月・5月)

2004年11月12日 地球市民村事務局

参加月	登録番号	ホスト団体名 国内パートナー団体名	団体概要	海外パートナー団体名	出展コンセプト	出展概要
3月25日 ～ 4月	4A	ホールアース研究所	富士山麓を拠点に20余年にわたり日本の自然体験型環境教育をリードしてきたホールアース自然学校から発生したNPO。参加者の「実体験」を大切に、自然や人に共感する心を大事にしながら年間約6万人を自然界にいざなう。自然学校やエコツーリズムの普及を通じ、持続可能な社会作りへ寄与することを目指す。	mata ELANG (インドネシア)	自然語で遊ぼう!	パビリオンには巨大昆虫や巨大な花が出現。来場者の体が虫のサイズに縮んだような空間を演出する。 人と自然をつなぐエンターティナー「インタープリター」が常駐し、展示物や野外で毎日楽しみながら自然の不思議を体験できるプログラムを行う。
	4B	北海道ウタリ協会 釧路支部	アイヌ民族の最大組織(本部は札幌市、全道55支部、会員数約4200人)で、釧路支部はそのひとつの支部。アイヌ古式舞踊で重要無形民族文化財の国の指定を受けるなど、アイヌ文化伝承の全道の先駆けとなっている。先住民による国際文化交流においても活発に活動している。	Abu-Ali Education and Community Development Project(タイ)	命のリンク	パビリオン内に囲炉裏を再現する。アイヌ民族とタイ北部のアカ族の伝統歌舞および伝統工芸品の展示とワークショップなどを通して、その背後にある先住民の自然と共生する知恵や世界観を広く知らせるプログラムを展開。
	4C	ECOPLUS	とびっきりの自然体験活動を提供するエコクラブ(1992年設立)と、世界の子どもたちに地球的視野からの環境教育プロジェクトを提供してきたワールドスクールネットワーク(1994年設立)の二つを包括する組織として、2003年6月10日に設立。	1. ロシアンミッション・コミュニティグループ(米国・アラスカ) 2. ミッシング・リンク(インド・北東部)	世界の知恵、地域の宝...ぼくらの目指す地球	パビリオンを十数台のパソコンを配置した情報ステーションとし、世界各地で環境活動に取り組んでいる子どもたちと来場者の間で「未来への環境メッセージ」の交換を図る。 アラスカとインド北東部の少数民族を招き、それぞれの地に伝わる踊りや暮らしを紹介、自然と調和のある暮らしを送るための「知恵」を来場者ともに探る。
	4D	国境なき医師団日本	世界に18支部を持つノーベル平和賞を受賞した世界的に有名な国際緊急医療・人道援助NGO。1971年にフランスで設立され、年間約3,000人の医師、看護師、助産師らが世界約80カ国で援助活動を行う。	Medicins Sans Frontieres (フランス)	国境なき医師団とは	難民キャンプで使用されているテント、物資、施設の実物を使って本物に限りなく近い難民キャンプを再現する。 同団体の写真展「暴力の爪痕」の展示、活動紹介フィルムの上映など。
	4E	おかざき匠の会	歴史有る岡崎(愛知県)の町の暮らしを形成してきた、石製品・三河仏壇・織物・花火・和ろうそくなど伝統的な技術を今なお継承する人(職人)を中心とする団体で、連綿と伝えられてきた先人の技を守りながらも、現代の暮らしで機能する持続可能なモノづくりの在り方を追求している。	韓国伝統工芸匠人会(韓国)	物語る匠の手	パビリオン内に、職人の仕事場を再現し、和ろうそく、矢、自然染色、表具など日本と韓国の匠による手仕事の実践を見せる。そうした匠の手仕事を持続可能な社会の実例として紹介する。また、平和希求という世界共通のテーマを、日韓の熟練手工業者が作品を通じて表現する。
5月	5A	ドングリの会 オークヴィレッジ 森林たくみ塾 オークヒルズ	母体のオークヴィレッジは、「100年かかって育った木は100年使えるモノ」などの理念をかけたながら家具づくりを実践する団体。NPOドングリの会はオークヴィレッジから発生したNPO。崩壊しつつある森林生態系の再生を行い、里山の循環型モデルを目指す。	サザンクロス (マダガスカル)	緑と木と唄と音楽 ～歌を唄おう森をつくろう～	パビリオン内でパオバブの巨木を展示し、緑の回廊をつくる。 パオバブの苗を通じて森を育む心を育てる。 森の素材を使ったものづくり体験
	5B	子どもの虐待防止ネットワーク あいち	弁護士、医師、教師、市民らが集まって1995年10月に発足。活動の中心は電話相談で、これまでに約1万件の相談を受けている。大勢の弁護士の協力で、子どもの保護が必要なケースなどの危機介入にも、積極的に取り組んでいる。	Royal Scottish Society for Prevention of Cruelty to Children (Children 1st)(英国、グレートブリテンおよび北部アイルランド連合王国)	子どもにきいてごらん、子どもを見てごらん、子ども=未来	子どもの虐待を防止するため、日常生活の中での親子のコミュニケーションギャップを表現する。 パビリオンでは、いろいろな顔をするお面のオブジェ、紙芝居、劇などで虐待について広く知ってもらう。
	5C	世界宗教者平和会議 日本委員会(WCRP) IARF・JLC(国際自由宗教連盟日本連絡会議)	WCRPは1970年の創設以来34年の歴史を持つ諸宗教で構成されたNGO。世界中の10大宗教を網羅し、115ヶ国に諸宗教組織がある。IARFは、1900年にボストンで創設された世界最古の国際的宗教協力団体。両団体とも、国連の経済社会理事會に属する。	1. World Conference on Religion and Peace(米国) 2. International Association for Religious Freedom(英国)	おいのち、いただきます	古来より人類が本源的に持っていた霊性をよみがえらすことが、世界平和、環境保全、人類と自然の共生、しいては持続可能な社会の現実への貢献するとの考えに基づき、「霊性の開発」をテーマとしたプログラムを、先住民の叡智、楽器の霊性などさまざまな角度から展開。
	5D	自然エネルギー推進市民フォーラム(REPP) 太陽光発電所ネットワーク(PV-Net) ワーカーズコープ エコテック(東海オフィス)(エコテック東海)	省エネとエネルギー利用の高効率化によってエネルギー消費量を減らすと同時に、化石燃料・核燃料利用を削減して自然エネルギー利用を増やすことを目指している。太陽光発電所ネットワークは、太陽光発電を設置した個人の声为社会へ反映されるよう、交流・情報交換を行なう。	1. FOJ-Betreuungsstelle(ドイツ) 2. Mali Folkecenter(マリ) 3. Cooperative Community Energy(米国) 4. Ecological Planning and Building Bauhaus University(ドイツ)	エネルギーが変われば生き方が変わる	「世界の自然エネルギー学校」として、世界各地で取り組まれている自然エネルギー活用の実例を紹介する。 自然エネルギーの活用が生み出すゆったり楽しむ暮らしを再現し、エネルギーシフトによる豊かな生き方を体感。 太陽光発電など自然エネルギーやエネルギーシフトの可能性をさぐるシンポジウムの開催。
	5E	ジョイセフ(家族計画国際協力財団)	ひとりひとりの視点に立って、世界の人口問題に取り組む日本生まれの国際協力NGO。アジア、アフリカ、中南米の開発途上国の人々が、自立して健康で幸せな生活を送れるように、地域に密着した生活改善運動を推進している。	タンザニア家族計画協会(UMATI) (タンザニア)	途上国のお母さんを救う 小箱・人・自転車	パビリオンの中では、アフリカの小さな村と民家を再現。途上国の多くの出産が自宅分娩。人々が生まれ、生活する日常空間を表現するとともに、村人の健康を守ろうと活躍している人々の活動を伝える。 妊娠・出産にかかわる世界の現状が一目でわかる展示や、妊娠シュミレーターでの妊婦体験コーナー、世界中の子どもたちからお母さんへの思いを発信した手紙の展示を行う。 コーヒーを飲みながら、クイズやゲストスピーカーによるトークを通じて、途上国のお母さんたちの現状を一緒に考えて語り合う場を設ける。

「地球市民村」参加NPO/NGO出展概要

(6月・7月)

2004年11月12日 地球市民村事務局

参加月	登録番号	ホスト団体名 国内パートナー団体名	団体概要	海外パートナー団体名	出展コンセプト	出展概要
6月	6A	エコプラットフォーム東海	愛知・岐阜・三重の東海地域において、環境教育に関心を持ち、実践を行っている市民、NPO、教育関係者、行政および大学などが交流し協働するために作られたプラットフォーム組織。また、持続性教育プログラムおよび人材育成カリキュラムの開発を行う。	Development Research Communication and Services Centre (インド)	コットンが「私」を包む -- そこから始まるサステナビリティ	「服を買うときに想像してほしい。その工程に関わる人々や自然環境を！」をメッセージとし、「衣服」に焦点をあて、衣服の生産から消費までの過程における地球環境への負荷について理解する。体験プログラムや自然素材を使っでの展示を行う。
	6B	国際環境NGO FoE Japan	FoE (Friends of the Earth)は、1971年に設立された国際的な環境団体ネットワーク組織。現在70カ国に100万人の会員を有する。FoE Japanは1980年に設立され、グローバルな視野から地球温暖化、森林、開発援助などの問題に対し政策提言を行うとともに、国内では廃棄物削減や省エネなどに草の根から取り組む。	BUND jugend (ドイツ)	Be a friend of the Earth! Act for the Earth!	若い世代が自然や環境に責任をもって行動し、社会を変えていくことの大切さを伝える。バビロン中央には高さ3mの化石燃料恐竜くんにおいて化石燃料からの脱却を訴え、自然観察日記の日独の作品なども展示する。 「ごみ」「エネルギー」などをテーマに、参加者に実践的な「行動」を働きかけ、参加者が考え体験するプログラムを、ワークショップやクイズ形式で展開。
	6C	キープ協会	山梨県八ヶ岳の清里で、キリスト教指導者研修施設の清泉寮を母体に、戦後日本の新しい農村コミュニティとして建設された。高冷地実験農場(酪農)、保育園、自然学校、環境教育施設などを運営。フィリピン、アメリカ、タンザニアと交流、支援活動を行う。	Cordillera Green Network Inc. (フィリピン)	清里の父ポールの金言 ~日本からアジアへ夢をつなげ	バビロンでは主にフィリピン山岳地域の人々の生活文化と村の様子を再現して紹介する。展示などで八ヶ岳南麓の里山、田んぼの学校、フィリピン、環境保全活動を紹介します。フィリピンの竹笛づくり、竹楽器をつかったあそび、少数民族の踊り、民話の語り部などを紹介など。
	6D	日本トイレ協会	1986年に国際トイレフォーラムを東京で開催して以来、1992年、世界で最初の「国際トイレシンポジウム」を神戸市で開催した実績をもつ。2002年には「World Toilet Organization」がゆるやかな国際トイレネットワークとして正式に発足。	World Toilet Organization (事務局:シンガポール)	トイレで気づく	日本や先進国などがいかにトイレに飲める水を使っているか、そして、世界にはトイレのない生活をしている人が24億人もいることなど、世界の事態を展示などで伝える。 また、身近なトイレ環境や浄化システム、また海外のさまざまなトイレ事情をパネルなどで紹介する。
	6E	自然育児友の会	自然なお産・母乳育児の情報提供・サポートを中心に活動している。日本で伝統的に女性から女性へと伝えられてきたお産・子育ての知恵を、現代のライフスタイルに無理のない形で取り入れ、自然な子育てを楽しむ家族、そしてそれを支える専門家のネットワーク。日本全国・海外合わせて2500人の会員がいる。	Attachment Parenting International (米国)	The Roots of Love ~絆を育む知恵と楽しさ~	「Roots of Love 絆を育む知恵と楽しさ」と題し、生後間もない時期に、赤ちゃんがまわりの大人(主に母親)と愛情の絆を育むことの大切さ、楽しさ、そのための具体的方法を展示。日米の子育て支援NPOが協力し、平和な未来を作る一番の近道=子どもを愛しむ知恵と楽しさを伝える。 赤ちゃん体験コーナー、絆を育むゲーム、自然なお産トーク、授乳&スリングショーなど。
7月	7A	オイスカ	アジアなど途上国の農村開発などを手広く展開してきた国際協力NGOの老舗。豊田市など全国4ヶ所に研修センターがあり、大勢の海外研修生が農業などを学んでいる。	オイスカ・タイ総局 (タイ)	土の力を取り戻せ!	古来日本人は、「土から離れない生活」をしてきたが、物質文明の中で土から離れてしまった。野菜や米や人や文化を育てる「土の力」に着目し、中部研修センターで農業を実践する研修生の生の姿や田畑の再現などの展示やプログラムを通して、土の力や感謝の気持ちを取り戻す試み。
	7B	地球緑化センター	“緑のボランティア”を育て、活動を応援する専門団体。個人・グループ・行政・企業・教育機関等、幅広い市民の参加を呼びかけ、多彩な活動を提供。中国では3ヶ所での緑化活動、国内では週末森林ボランティアと長期山村滞在ボランティアなどを展開。	伊金霍洛旗林業技術服務中心 (中国)	環境千年・巨木物語	巨木には、長い時間をかけて森の中で育ってきた歴史の物語がある。森自体の持つ循環と、人間の持つ時間はスパンが違えども、ともに生き、人間は巨木の「いのち」に学んできた。それらの巨木の生命誌を通して未来をさぐるプログラムを展開する。 映像・祭・クラフト作り・クイズ・音楽など多彩なプログラムを通じて巨木の時間を体感。 内モンゴル遊牧民の家、パオでは内モンゴルに残る一本の巨木と人々の生命力を表現。
	7C	国土緑化推進機構 森づくりフォーラム	1950年に設立され、「国民参加の森林づくり」活動を推進することにより、日本文化の発展と国際貢献に資することを目的としている。国土緑化を進める林野庁の外郭的な団体。出展はNPO森づくりフォーラムと協働。	BTCV British Trust for Conservation Volunteers (英国)	かしこく木を使って、森を守るう ~めざせ! 森の救護隊~	森林国でありながら、安い海外の木材輸入に走り、世界の森も日本の森も荒らしてしまった日本。来場者が、木をもっと身近に感じ、森の豊かさや楽しさを体感するとともに、森を知り、次世代に豊かな森を引き継ぐことができるような参加型プログラムや展示・映像紹介を展開。 国内外の各地でワーキングホリデーや里山保全ボランティア活動に取り組んでいる団体やイベントの紹介。
	7D	シャンティ国際ボランティア会(SVA)	1979年インドシナ難民大量発生を契機に発足。「曹洞宗国際ボランティア会」の名称から1999年「社団法人シャンティ国際ボランティア会」に変更。アジア地域での教育協力事業、クラフトエイド、地球市民教育、国内外での緊急救援事業を行なっている。	1. SVAメーソット事務所(タイ) 2. SVAプノンベン事務所(カンボジア) 3. SVAジャララバード事務所(アフガニスタン)	小さな絵本の大きなチカラ	ミャンマーの難民キャンプの図書館の雰囲気再現するバビロンを作り、アジアの文化や絵本のすばらしさを、実際の読みきかせや、絵本の翻訳シール貼りなどで体感。 民族衣装を着てみたり、手工芸品に触れたり、謄写版で図書カードを作ったり、子どもが楽しめるプログラムで展開。
	7E	地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)	日本政府の対人地雷全面禁止条約(オタワ条約)への加入を求める個人や団体が集まり、1997年地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)を成立。その後JCBLは地雷禁止国際キャンペーン(ICBL)やその傘下のキャンペーンNGOとともに地雷廃絶運動を行う。	1. 地雷廃絶カンボジアキャンペーン(CCBL)(カンボジア) 2. 地雷廃絶ネパールキャンペーン(NCBL)(ネパール) 3. 韓国対人地雷対策会議(KCBL)(韓国) 4. 地雷廃絶スリランカキャンペーン(SR-CBL)(スリランカ)	対人地雷の廃絶に立ち上がった市民活動のサクセスストーリー	踏むと音が出る模擬地雷原を体験、地雷に囲まれている人々の暮らしに触れる。 地雷被害者の実態を表したパネルや義肢の展示、地雷探知、除去、地雷回避教育などを紹介。 地雷問題の解決のため、オタワ条約締結に立ち上がった市民運動の取り組みを紹介。 オタワ条約に入っていない国の地図にチョウチョをピンで留め、加入をアピールする。

「地球市民村」参加NPO/NGO出展概要

(8月・9月)

2004年11月12日 地球市民村事務局

参加月	登録番号	ホスト団体名 国内パートナー団体名	団体概要	海外パートナー団体名	出展コンセプト	出展概要
8月	8A	中部リサイクル運動市民の会 グリーンマップあいち	20年の実績を持つ中部圏を代表する環境団体。同会はハノーバー万博にも参加した数少ない日本のNPOで、愛・地球博も県民参加プロジェクトやエコマネーなどで関わっている。グリーンマップは愛知県内の各地で展開中。	グリーンマップシステム (米国)	歩き始めれば、みえてくる。 だから、グリーンマップ	ニューヨークのデザイナー、ウェンディ・ブラウアーさんから始まった、世界共通のアイコンで地域の環境情報を自分たちで調べて地図を作っていく「グリーンマップ」は、世界42カ国に広がっている。誰もが参加でき、自分たちで創っていく地図は、まちづくりや環境学習の道具として大変有効で、その魅力や世界での展開、使い方のヒントなどを、わかりやすいアイコンを軸に、展示と体験プログラムで展開。
	8B	生態教育センター	生態計画研究所を母体に、自然環境の保全と回復、自然と共生する地域づくりを推進するために2002年に設立。自然発見館(岐阜県各務原市)における環境学習プログラムの提供、プロジェクト・ワイルドの指導者養成、野生生物を通じた教育など生態教育を中心に活動。	Trust for Urban Ecology (TRUE) (英国)	身近な絶滅を防ぐ 都市の生態圏	都市化によってカエルなど身近な生き物を絶滅させないよう、生き物が生息できる空間(ワイルドライフガーデン)を創ることで、都市での人間と自然が共生できるモデルを探る。そのために、身近な生き物であるミツバチ、カエルやチョウの生息の意義などを展示で伝えたり、ガイドプログラムで解説を加えながら歩いたり、ワイルドライフガーデンづくりを体験する。
	8C	国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター (アイサーチ・ジャパン) JEAN(クリーンアップ全国事務局)	「イルカ・クジラと彼らが暮らす自然環境を守るには、生態を正しく知ることが何よりも大切」との考えから、イルカ・クジラについて「正しく知り」「分かりやすく伝える」活動に取り組んでいる。JEAN(クリーンアップ全国事務局)は、ごみの調査やクリーンアップを通じて海や川の環境保全を行っている。	1. Interspecies Inc. (米国) 2. the Whale and Dolphin Conservation Society(英国)	1・2・3・Sea・Go!!	海の環境を知ってもらうには、まず「海に行きたい!」と思ってくれる事自体がなによりも大切、そして実際の海を見て感じて、次のステップである「行動する(アクション)」につなげるために、「海を感じる」「海に学ぶ」「海と遊ぶ」の3つ切り口から「体感を通して楽しく学ぶ」ことを目的に展示/ワークショップを展開します。
	8D	シャブラニール	バングラデシュを中心に、30年の実績を持つ国際協力NGOの老舗。バングラデシュとネパールで農村開発やストリートチルドレン支援など、当事者主体を原則として活動している。	1. BRAC-Aarong (バングラデシュ) 2. UBINIG(バングラデシュ)	手工芸品から知るバングラデシュの豊かさ	貧しいと思われるバングラデシュの生活には、文化・自然・時間の流れ・家族・コミュニティなど豊かな面も多い。伝統的な刺繍の手工芸品である「ノクシカタ」の展示やプログラム、またコンサートなどを通じて、バングラデシュの人々の生活や豊かさを知る。
	8E	ガールスカウト日本連盟 ガールスカウト日本連盟 愛知県支部	少女と若い女性のための世界最大の社会教育運動の日本の本部。自然体験・国際交流・地域での交流・奉仕活動・地球規模の課題への取り組みなどの体験活動を通して、自分で考え、行動できる“主体性”を身につけ、平和な世界を築く、責任ある世界市民となることを目指します。	ガールガイド・ガールスカウト 世界連盟 (本部イギリス、144カ国加盟)	世界中の「元気の種」お分けします! つながってるね世界、つながってるね地球~ちょっとお茶しませんか~	地球全体を元気にするには、一人ひとりの元気、幸せ、平和が大事! 日本・世界のガールスカウトの「元気の種」を紹介する展示や、さまざまなゲームやプログラムを通して来場者の「元気の種」を引き出し共有する場を目指す。 来場者をまきこんだ大規模な平和イベントも計画している。
9月	9A	ソムニード	植林事業を中心にインドとネパールで自立支援事業を行っている、岐阜県高山市に事務局本部を置く、地方のNGO、地元岐阜県の専門技術者による協力を得て、生活者の視点で、住民主体の活動をしている。地域の課題は世界の課題との考えで国内でも地域活動を展開。	Integrated Rural Development of Weaker Sections in India (WIDA)(インド)	ジャングルが消えるとカレーも消える	「ジャングル」はインドの言葉で森のこと。「カレー」はインドの食を象徴する言葉。ジャングルを失った人々が、貧困に陥った現実とジャングル再生への活動を紹介。カレーとジャングルの関係とは? 消えた豊かなジャングルをビジュアルアートで表現。観光旅行では経験できないインドの日常生活を展示やワークショップで伝える。
	9B	たんぼぼの家	障害のある人たちの自立援助サービスセンターをつくるために設立。現在は「わたぼうし音楽祭」や「エイブル・アート・ムーブメント」等を通して、障害のある人をはじめ誰もが自己を表現する能力と、その社会的な役割を高めることができるための活動を展開。	Access Arts Incorporated (オーストラリア)	signs 「さまざまな生命の交感」	「世界の空」Sky, Smile, Story 空と笑顔の物語”:世界の小児病棟で行なうフォトアート・プログラムの成果展示とワークショップ 「サウンドサークル」:障害のある人を交えて行なう即興パフォーマンスワークショップ 風と太陽のフラッグアート
	9C	日本国際飢餓対策機構 世界食糧デー名古屋大会 実行委員会	1981年インドシナ難民救援を契機に活動を開始。世界のひとりひとりがお互いに「善い隣人になって共に生きる」社会づくりを目指し、物心両面に応える「人づくり」を行う。	Food for the Hungry International (FHI) (国際サービス・センターをタイ・バンコクに置く)	からだの飢餓とこころの飢餓~ 分かち合いへの第一歩	「みんなが食べられる世界」を実現するには、飢餓の現状や理由を知り、物質的な援助だけでなく、他者の痛みを理解する「善隣共生」の生き方が必要であることを、「南君」というキャラクターを核に、展示やワークショップで表現。
	9D	東アジア環境情報発信所	日本、中国、韓国で環境保護活動に関わる団体や個人が、3カ国の環境協力を進めることで合意したことを受けて、日本側の窓口として2000年12月に設立。2001年に、日中韓3言語による環境情報共有サイト“ENVIROASIA”(http://www.enviroasia.info/)の運営を開始。	1. 韓国環境運動連合(韓国) 2. 緑色北京(中国)	東アジア環境情報スタジオ	「英語もダメ、ましてや中国語や韓国語なんて全くわからない!」.....そんな方でも大丈夫。日本語で中国や韓国のナマの情報が手に入ります。「ニュースの現場って?」「記事はどうやって作られるの?」そんな疑問にお答えしながら、東アジアの最新環境問題をライブ感いっぱいでお伝えします。
9E	NPO birth 畑の教室 むさしの里山研究会 環音 足立グリーンプロジェクト	緑の環境まちづくり活動を支援するNPO法人。人と自然、人と人との架け橋となることを目指し、公園・雑木林・農園などの緑地を、まちのコミュニティスペースとして活用する活動を行っている。国内外の緑保全団体をネットワークする「グリーンパル」からの出展。	1. Sustainable Agriculture Education (米国) 2. Urban Resource Systems/Neighborhood Parks Council(米国) 3. Earth House(米国)	感じて! 街のみどり妖怪シード 口の気配	派手さのない身近な緑を見直してもらうために、心の中にある自然を求める気持ちと、街中のみどりをつなく存在として、植物の精霊「妖怪シード」を設定。来場者の中のシード口度をチェックしたり、市民村の中のシード口の住みかを探したり、自分の街を見直したり、工房でのものづくりなど、参加性の高いプログラムを中心に展開。	